ぼくはこの話を読んで、だから日本人は、人がらがいいと、~~外国の人に~~思われるんだと思った。なぜなら一人の人だけに手紙をかいたりおくっているからだ。

なのに、かんがえると、ぼくたち一人一人が、すごいよいんがらをもっている。

ぼくが、住んでいたロンドンの公園で、友達にお菓をくばっていたら、ロンドンの知らない人たちに、お菓をとられていると、気づいたらありませんでした。まるで、ねずみのえさがりでした。

いっぽう日本の公園でえさをくばると、ぼくのぶんだけのこって、しかも、くばった人だけがもっていきます。これが、日本人の人がらのよさです。

③ ぼくは、しゃい句に、余白があると思った。なぜなら、有名な、松尾芭蕉のだい表作

「古池や　蛙飛びこむ　水の音」

では、古い池にかえるがとびこみ、ポチャンとなるイメージを作ってくれるからです。ちなみにちがうはい句では、正岡子規の

「柿くへば　鐘が鳴るなり　法隆寺」

では、柿を食べていたら、法隆寺の金重がなったということが、初めたかもです。

このようにはい句にも余白がある。

④ ぼくは、日本人のあっさりさが、余白がすきだ。なのでは、はい句や、百人一首を聞くのがすきだ。なぜなら、よんだあとにつづくよいんと、あとからひらめくのが、楽しいからだ。